

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
ドイツ文学概論Ⅰ	ヨーロッパ的文脈から見たドイツの歴史と文化	2	森本 浩一	3	金	3
ドイツ文学概論Ⅱ	物語と物語経験	2	森本 浩一	4	金	3
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	水	2
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	水	2
ドイツ文学基礎講読Ⅰ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	3	火	1
ドイツ文学基礎講読Ⅱ	ドイツ文学基礎講読	2	ナロック ハイコ	4	火	1
ドイツ文学各論Ⅰ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅵ)	2	佐藤 研一	5	木	4
ドイツ文学各論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生 —レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(Ⅶ)	2	佐藤 研一	6	木	4
ドイツ文学各論Ⅲ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(7)	2	佐藤 雪野	5	火	2
ドイツ文学各論Ⅳ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(8)	2	佐藤 雪野	6	火	2
ドイツ語学各論	中高ドイツ語入門	2	嶋崎 啓	6	金	2
ドイツ語学各論	テキストとは何か—編集 文献学入門—	2	明星 聖子	集中		
ドイツ文学演習Ⅰ	フィクションの物語を批評する(1)	2	森本 浩一	5	月	3
ドイツ文学演習Ⅱ	フィクションの物語を批評する(2)	2	森本 浩一	6	月	3
ドイツ文学演習Ⅲ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	5	金	2
ドイツ文学演習Ⅳ	多読による読書体験の再獲得	2	菊池 克己	6	火	4
ドイツ語学演習Ⅰ	ドイツ語学演	2	ナロック ハイコ	5	水	3
ドイツ語学演習Ⅱ	ドイツ語学演習	2	ナロック ハイコ	6	水	3

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-LIT204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ヨーロッパの文脈から見たドイツの歴史と文化

2. Course Title (授業題目) : History and culture of the German-speaking sphere in the European context

3. 授業の目的と概要：

「ドイツ語圏」の歴史と文化に関する基礎的知識の習得を目的として、歴史上の重要なトピックを取り上げて概説する。「ヨーロッパ」という文脈を常に意識し、そこにおけるドイツの特色は何かを考えてゆきたい。幅広い概観を通じて常識的視野を広げることを目的とする授業である。世界史についての関心を有していることが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

With the aim to help students acquire a basic understanding of the history and the culture of the German-speaking sphere, this course deals with the main historical topics from the ancient time to the 20th century. It focuses the wider context of "Europe" and the specific features of German area.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語圏を中心としたヨーロッパ近代の歴史と文化に関する常識が身につく、現代の世界がなぜこうなっているのかについて理解し考察する能力が向上する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will widen his/her perspective to understand the characteristics of the German-speaking sphere in Europe.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 古典古代・キリスト教・ゲルマン人
2. フランク王国と「ヨーロッパ」の成立
3. 神聖ローマ帝国
4. 12～13 世紀のヨーロッパ
5. 過渡期の帝国
6. 中世の終わり
7. 予備回
8. 宗教改革
9. 16～17 世紀のヨーロッパ
10. プロイセンの成立と発展
11. フランス革命とその余波（19 世紀）
12. ドイツ語圏の文化と思想
13. ドイツ帝国の半世紀
14. ヒトラーとホロコースト
15. 戦後ドイツ

8. 成績評価方法：

おおむね、出席（30%）と期末レポート（70%）。

9. 教科書および参考書：

参考書としては、坂井栄一郎『ドイツ 10 講』、岩波新書、2003 年。その他は、授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

特別に予習や復習を求めるものではないが、読書やメディアからの情報収集を通じて、日常的にこの「世界」の現状と来歴について関心を向け、自ら思索する習慣を身につけてほしい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。 xkc-m2rt@m.tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB45302, 科目ナンバリング：LHM-LIT205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：物語と物語経験

2. Course Title (授業題目) : Narrative and its experience

3. 授業の目的と概要：

小説・映画・ドラマ・マンガ・ゲームなど「フィクションの物語」は、ますますそのジャンルを多様化させ、文化産業としての規模も拡大して、われわれの日常生活に浸透している。なぜ「現実」と関わらない「物語」が面白いのか、そもそも物語を享受するときわれわれは何をしているのか。この授業では、特に各ジャンルの本質的かつメディア依存的な構造・特性と、それがもたらす「物語経験」のあり様について考察することで、こうした問いを探究してみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Today "narrative as fiction" such as novel, movie, drama, manga, game, etc. are increasingly diversifying their types and genres, promoted by the innovation of media. And we feel now that they are indispensable to our life. Why does the fictional narrative, which is irrelevant to our reality, fascinate us so much, and what do we do in the first place, when we enjoy it? In this lecture we ask these questions from the theoretical viewpoint, especially focusing on the essential and media-dependent properties of each narrative type and the recipient's "narrative experience" effected through those properties.

5. 学習の到達目標：

物語および物語経験についての一般的理解が深まり、個別の作品享受がより自由で豊かなものになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will acquire a general understanding of narrative genres and narrative experiences, which will make their individual enjoyment more free and sensitive.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 現実とフィクション
3. 物語の本質とその基本性質
4. メディアと物語
5. 小説の物語経験
6. ナラトロジー(1)
7. ナラトロジー(2)
8. 予備回
9. マンガの物語経験(1)
10. マンガの物語経験(2)
11. 動画ジャンルの物語経験(1)
12. 動画ジャンルの物語経験(2)
13. 動画ジャンルの物語経験(3)
14. 物語経験と物語解釈
15. まとめ

前半では虚構の物語に関する本質的・一般的問題を考察し、後半ではメディアに対応した各ジャンルの特性とそこでの物語経験について考える。

8. 成績評価方法：

おおむね、出席(40%)と期末レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

これを機会に、自分がこれまで知らなかった、あるいは敬遠していた作品やジャンルにも接して「物語経験」の幅を広げ、そこで自分が何を「感じるか」を常に反省する習慣を身につけてほしい。できるだけ多様な小説を読み、映画を見、マンガを読むことがこの授業における「時間外学習」である。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ語学概論 I / German Linguistics (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB33201, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 不定詞 (1)
- 3 不定詞 (2)
- 4 分詞 (1)
- 5 分詞 (2)
- 6 接続詞 (1)
- 7 接続詞 (2)
- 8 副詞 (1)
- 9 副詞 (2)
- 10 語順 (1)
- 11 語順 (2)
- 12 非人称の es (1)
- 13 非人称の es (2)
- 14 形容詞の比較 (1)
- 15 形容詞の比較 (2)

8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)

10. 授業時間外学習：

復習が重要です。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらおう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-LIT207J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Der Unterricht orientiert sich daran, verschiedene Themen, die in der grundlegenden Grammatik normalerweise nicht berücksichtigt werden, in Betracht zu ziehen und die deutsche Grammatik besser kennenzulernen.

5. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, die deutsche Grammatik besser zu verstehen und deutsche Sätze besser lesen und schreiben zu können.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 分離動詞・非分離動詞 (1)

3 分離動詞・非分離動詞 (2)

4 受動態 (1)

5 受動態 (2)

6 再帰動詞 (1)

7 再帰動詞 (2)

8 話法の助動詞 (1)

9 話法の助動詞 (2)

10 命令表現 (1)

11 命令表現 (2)

12 冠詞 (1)

13 冠詞 (2)

14 関係代名詞 (1)

15 関係代名詞 (2)

8. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)

10. 授業時間外学習：

復習が重要です。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらおう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-LIT219J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目) : German Literature (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身についたドイツ語能力を安定させて発展させる。
学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第1話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第2話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第3話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第4話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第5話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第6話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第7話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第8話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第9話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第10話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第11話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第12話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第13話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第14話

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

9. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinoluceri&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

10. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学基礎講読Ⅱ／ German Literature (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB42103, 科目ナンバリング：LHM-LIT220J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目) : German Literature (Introductory Reading)

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身についたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者の ドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 15 話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 16 話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 17 話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 18 話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 19 話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 20 話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 21 話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 22 話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 23 話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 24 話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 25 話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 26 話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 27 話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 28 話

8. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

9. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

10. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LB54401, 科目ナンバリング：LHM-LIT306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(VI)

2. Course Title (授業題目) : Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (VI)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえながら、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチィ』(1772) を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774) や喜劇『軍人たち』(1776) 等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わいつつ、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング (1729-81) の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Fünfter Aufzug, Erster Auftritt

第3回：Fünfter Aufzug, Erster Auftritt

第4回：Fünfter Aufzug, Zweiter und Dritter Auftritt

第5回：Fünfter Aufzug, Dritter und Vierter Auftritt

第6回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第7回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第8回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第9回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第10回：Fünfter Aufzug, Sechster und Siebenter Auftritt

第11回：Fünfter Aufzug, Achter und Neunter Auftritt

第12回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第13回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第14回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第15回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt および総括

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

9. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。

参考文献は以下の通り。

Goethe, Johann Wolfgang: Götz von

Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004. /Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder

Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001. /Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart:

Reclam, 2004. /

柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

10. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 研一（非常勤講師）

講義コード：LB64402, 科目ナンバリング：LHM-LIT307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(VII)
2. Course Title (授業題目)：Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (VII)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえ、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッチィ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わいながら、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。なお、当喜劇読了後は、『ミンナ』同様、七年戦争の影響下で執筆された一幕もの悲劇『フィロータス』(1759)を読む予定。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第3回：Fünfter Aufzug, Zehnter Auftritt

第4回：Fünfter Aufzug, Eilfter Auftritt

第5回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第6回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第7回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt

第8回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter und Vierzehnter Auftritt

第9回：Fünfter Aufzug, Vierzehnter und Fünfzehnter Auftritt

第10回：当喜劇に関する討議・総括

第11回：Philotas. Erster Auftritt

第12回：Philotas. Zweiter Auftritt

第13回：Philotas. Zweiter Auftritt

第14回：Philotas. Zweiter Auftritt

第15回：Philotas. Dritter Auftritt

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

9. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。

参考文献は以下の通り。

Goethe, Johann Wolfgang: Götz von

Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder

Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart:

Reclam, 2004./

柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

10. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野（非常勤講師）

講義コード：LB52207, 科目ナンバリング：LHM-LIT308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(7)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (7)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1.Students will understand history and culture of German speaking area.

2.Students will develop skills to read German academic text.

3.Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. プラハの歴史1

3. プラハの歴史2

4. ボヘミアとドイツ人1

5. ボヘミアとドイツ人2

6. プラハとユダヤ人1

7. プラハとユダヤ人2

8. 映画「この素晴らしき世界」1

9. 映画「この素晴らしき世界」2

10. プラハのドイツ文学1

11. プラハのドイツ文学2

12. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 1

13. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 2

14. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 3

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature (Special Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野（非常勤講師）

講義コード：LB62205, 科目ナンバリング：LHM-LIT309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(8)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of German Cultural Sphere (8)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

1.Students will understand history and culture of German speaking area.

2.Students will develop skills to read German academic text.

3.Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション

2. レンカ・ライネロヴァーとプラハ

3. ホロコーストとプラハ

4. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 1

5. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 2

6. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 3

7. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 4

8. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 5

9. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 6

10. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 7

11. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 8

12. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 9

13. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 10

14. Lenka Reinerová: Das Taumcafé einer Pragerin 11

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

12. その他：進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB65205, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中高ドイツ語入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Middle High German

3. 授業の目的と概要：

1200 年頃の中高ドイツ語 (中期高地ドイツ語) の基礎を学ぶ。

ドイツ文学史において中世は騎士文学が栄えた重要な時期であり、この時代の文学を理解することは近代以降のドイツ文学を理解する大きな助けとなる。この授業では、中世文学のテキストを通して中世文学理解の基盤となる中高ドイツ語の基礎を学んでいく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In der deutschen Literaturgeschichte gilt das Mittelalter, wo die höfisch-ritterliche Literatur blühte, als eine wichtige Epoche. Durch die Kenntnisse dieser Literatur kann man auch die moderne Literatur besser verstehen. In dem Unterricht soll in das Mittelhochdeutsche eingeführt werden, damit man die mittelalterliche Literatur kennen lernen kann.

5. 学習の到達目標：

中高ドイツ語の基礎を知る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, dass man sich die Grundkenntnisse des Mittelhochdeutschen aneignet.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1505-1506)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1507-1508)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1509-1511)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1512-1514)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1515-1517)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1518-1520)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1521-1523)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1524-1526)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1527-1529)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1530-1532)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1533-1535)

8. 成績評価方法：

平常点 (出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 連講

semester：集中， 単位数：2

担当教員：明星 聖子（非常勤講師）

講義コード：LB98815， 科目ナンバリング：LHM-LIT311J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：テキストとは何かー編集文献学入門ー

2. Course Title (授業題目)：What is a Text?: An Introduction to Textual Scholarship

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語圏を中心に 20 世紀後半に隆盛した編集文献学という学問分野を、具体例に基づいて紹介・概説しながら、文学研究が基盤とするテキストとは何かという問題をめぐって考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course introduces and outlines the academic field of "Editionsphilologie", which prospered in the latter half of the 20th century, mainly in German-speaking countries, and discusses on which texts literary studies should be based.

5. 学習の到達目標：

ヨーロッパの人文学の伝統的なテキスト批判および読解の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Learn basic academic skills for studying literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション
- 2 プラトン『ポリテイア (国家)』
- 3 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
- 4 シェイクスピア『ハムレット』
- 5 ニーチェ『権力への意志』
- 6 ヘルダーリン全集の変遷
- 7 聖書
- 8 チョーサー『カンタベリー物語』
- 9 ジョイス『ユリシーズ』
- 10 カフカの遺稿 (1)
- 11 カフカの遺稿 (2)
- 12 カフカの遺稿 (3)
- 13 カフカの遺稿 (4)
- 14 まとめ (1)
- 15 まとめ (2)

8. 成績評価方法：

授業への参加 (80%) とレポート (20%)

9. 教科書および参考書：

明星聖子・納富信留編『テキストとは何かー編集文献学入門』(慶應大学出版会) 2015 年。
その他は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

次の授業で扱う教科書の章について、事前に目を通しておくことを求めます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB51303, 科目ナンバリング：LHM-LIT323J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フィクションの物語を批評する (1)

2. Course Title (授業題目) : Practice in criticism of fictional narrative (1)

3. 授業の目的と概要：

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students read and watch the fictional narrative works of various media, so as to write their own critical texts and to discuss about each other's critiques. Then the following questions will be focused: what the essential elements of the narrative are, how the difference of medium has an effect on the narrative experience of the recipient, and so on.

5. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、批評を書く技倆が向上する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will become more sensitive to the relationship of medium and content, and will improve the ability to write a critical text.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. メディア比較 (1)
3. メディア比較 (2)
4. 自由課題批評 (1)
5. 自由課題批評 (2)
6. 自由課題批評 (3)
7. 映画を批評する (1)
8. 映画を批評する (2)
9. 映画を批評する (3)
10. 映画を批評する (4)
11. マンガを批評する (1)
12. マンガを批評する (2)
13. 短篇小説を批評する
14. 長篇小説を批評する
15. まとめ

8. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加 (80%) およびレポート (20%)

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

自らの批評文等の指定された提出物は、事前に準備し、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business : ○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB61306, 科目ナンバリング：LHM-LIT324J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：フィクションの物語を批評する(2)

2. Course Title (授業題目)：Practice in criticism of fictional narrative (2)

3. 授業の目的と概要：

様々なタイプの物語作品を対象として、実際に批評的テキストを作り出す訓練を行う。作品解釈において、形式や内容のどのような点に着目し、どのような言葉で自らの解釈を表現するかを、討議の中で検討してゆく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to help students improve the ability to write the critical text. Through their own critical writing and discussion they will investigate by themselves, on which aspects of the form(medium) and the content they should focus and by which words the recipient's experience can be more appropriately described and expressed.

5. 学習の到達目標：

作品を批評する能力が向上する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will improve the ability to write a critical text.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. 批評演習(1)
3. 批評演習(2)
4. 批評演習(3)
5. 批評演習(4)
6. 批評演習(5)
7. 批評演習(6)
8. 批評演習(7)
9. 批評演習(8)
10. 批評演習(9)
11. 批評演習(10)
12. 批評演習(11)
13. 批評演習(12)
14. 批評演習(13)
15. まとめ

8. 成績評価方法：

授業における発表、各回の批評文の提出と討議への参加（70%）および最終的な批評テキストの完成（30%）

9. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：

自らの発表に向けた調査・執筆のための時間外学習が必要である。また毎回他の参加者の発表への論評の提出も求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar) III

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB55206, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：

現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.

In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.

5. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1473-1474)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1475-1476)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1477-1479)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1480-1482)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1483-1485)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1486-1488)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1489-1491)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1492-1494)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1495-1497)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1498-1501)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1502-1504)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：菊池 克己（非常勤講師）

講義コード：LB62403, 科目ナンバリング：LHM-LIT326J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：多読による読書体験の再獲得

2. Course Title (授業題目) : Gaining reading experience by extensive reading

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語を読むとは、文法を把握して、適切な訳語を選び、訳文を通して理解するものだと考える人が多いかもしれない。だが、日本語に置き換えることにばかり意識を奪われ、本を読んで楽しむという本来の目的を見失っていないだろうか？ 訳読によってドイツ語を知識として知ることにはできるかもしれないが、何かに心を動かされるという本来の読書体験がなおざりにされているとしたら本末転倒、文学を経験するどころの話ではないだろう。それに、日本語に置き換えて理解するのではなく、ドイツ語のままわかるようになることが、ドイツ語を学ぶ本来の目標のはずだ。そこでこの授業では、多読を通して読書の魅力を再発見し、本来の読書体験を積み重ねることで、ドイツ語での読書力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course provides students with books to read by means of extensive reading. Students choose books for themselves and read at their own pace. The aim is to help students to gain proper reading experience which is likely to be spoiled in the text understanding through analyzing grammatically and translating into Japanese.

5. 学習の到達目標：

- ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
- ・ドイツ語での読書を習慣化する。
- ・読みの流暢さを獲得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The goals of this course are to

- enjoy reading in German without translating into Japanese
- acquire the habit of reading in German
- improve reading fluency

7. 授業の内容・方法と進度予定：

自分の能力にあった本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。

1 オリエンテーション：多読とは何か？

2 多読実践 1

3 多読実践 2

4 多読実践 3

5 多読実践 4

6 多読実践 5

7 多読実践 6

8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる

9 多読実践 7

10 多読実践 8

11 多読実践 9

12 多読実践 10

13 多読実践 11

14 多読実践 12

15 読書経験を振り返って

8. 成績評価方法：

平常点 [100%]

9. 教科書および参考書：

教室で指示

10. 授業時間外学習：

隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学演習 I / German Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ (教授)

講義コード：LB53306, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ語学演

2. Course Title (授業題目) : German Linguistics (Seminar)

3. 授業の目的と概要：

2 年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

B1 レベルのドイツ語を身につける

6. Learning Goals (学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Gesundheit I - Beschwerden nennen
2. Gesundheit II - Witz erzählen
3. Gesundheit III - Bild beschreiben
4. Gesundheit IV - Text zusammenfassen
5. Gesundheit V - Gedicht
6. Gesundheit VI - Orthographie
7. Gesundheit VII - Lange und kurze Vokale
8. Gesundheit VIII - Passiv
9. Gesundheit IX - Relativsatz
10. Gesundheit X - Konjunktiv
11. Klima I - Wettererscheinungen benennen
12. Klima II - Geschichte zu Bildern erfinden
13. Klima III - Pro und Kontra Diskussion
14. Klima IV - literarischer Text
15. Klima V - Erlebnisbericht

8. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

9. 教科書および参考書：

Stufen International 2

10. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ（教授）

講義コード：LB63306, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ドイツ語学演習
2. Course Title (授業題目)：German Linguistics (Seminar)
3. 授業の目的と概要：
2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。
読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)
5. 学習の到達目標：
B1レベルのドイツ語を身につける
6. Learning Goals(学修の到達目標)
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. Klima VI - Brief
 2. Klima VII - Wortakzent und Satzakzent
 3. Klima VIII - Präpositionen
 4. Klima IX - Komparation
 5. Klima X - Plusquamperfekt
 6. Etikette I - Höflichkeitsregeln
 7. Etikette II - Parabeln
 8. Etikette III - Rollenspiel
 9. Etikette IV - Ausdruck der Bewegungsrichtung
 10. Etikette V - Hörverstehen Interview
 11. Etikette VI - Gedicht
 12. Etikette VII - Satzakzent und Rhythmus
 13. Etikette VIII - Konjunktiv II
 14. Etikette IX - Verben mit Präpositionen
 15. Etikette X - Nominalisierungen
8. 成績評価方法：
授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する
9. 教科書および参考書：
Stufen International 2
10. 授業時間外学習：
定期的に宿題を出す
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
12. その他：

